



香南市総合防災訓練

昨年より1,63人増 7,080人が参加



南海トラフで起き得る最大級の地震が起これ、県内沿岸が最大30メートル級の津波に襲われ、全国で約32万人、県内で4万9千人が死亡するという「新想定」が公表されて以来、初めての防災訓練。参加者一人ひとりが最悪の事態を想定して、緊張感を持って実践訓練に臨みました。

“生きる”ために逃げる

9月2日(日)午前8時55分、四国沖の南海トラフを震源としたマグニチュード9.0の巨大地震が発生し、10メートルを超える大津波が沿岸部に押し寄せるとの想定で訓練を実施しました。午前9時には、サイレンや防災行政無線により避難指示を発令。住民らは、市内全209カ所の各避難場所を目指して、ただひたすら逃げました。

この日の訓練参加者数は、消防団などを含め7,080人(昨年より1,163人増加)で、自主防災組織は昨年の92組織から95組織(組織率87%)となっています。各自自主防災組織では、避難経路の安全性、避難場所の適否、避難時間などをチェックするほか、自分で避難することが困難な「災害時要援護者」を消防団と住民が連携して車いすや担架に乗せて運搬するなど、本番を意識した訓練に取り組んでいました。訓練終了後は、防災資機材の点検や、炊き出し訓練、防災学習などを行い、防災に対する知識を身に付け、災害に備えました。

最悪の事態でも必ず生き延びる

本番を想定した訓練

今年の訓練主会場は、赤岡小学校。赤岡町少年防災クラブによる放水訓練をはじめ、日赤奉仕団赤岡分区分・赤岡町女性防火クラブ・自衛隊による炊き出し訓練や、赤岡消防団・各自自主防災組織による倒壊家屋救出訓練、香南警察署・自衛隊・消防本部が連携した合同救助訓練などを実施。会場内には、四国電力の高所作業車体験や、県LPガス協会のLPガス普及啓発コーナーが設けられ、来場者は防災について知識を深めました。

また、サブ会場となった城山高校では、派遣要請を受けた自衛隊ヘリコプターが運搬してきた救援物資を、地域住民と城山高校生がバケツリレーで自衛隊車両に搬入しました。(関連25ページ)。

早期避難の徹底を

今回の防災訓練を通して、各地域でさまざまな問題点があったと思います。課題解決に向けて、避難路や津波避難タワーの建設などハード整備を進めていくことはもちろんのことですが、やはり大切なことは「とにかく早く高い所へ逃げる」という早期避難を、日ごろから徹底して繰り返していくことです。最悪のケースから目を背けるわけにはいきません。しかし決して諦めることなく、行政と住民がともに話し合いを重ね、いろんな知恵を出し合い、死者をできる限り「ゼロ」に近づけていく対策を、いっすつ積み重ねていくことが重要です。必ず生き延びるために...



1 2 高台へ避難 3 災害時要援護者をリヤカーに乗せて避難 4 避難所で受付名簿に記入 5 赤岡町少年防災クラブによる放水訓練 6 同クラブの活動などをPR 7 救援物資を自衛隊車両に搬入 8 患者を自衛隊ヘリで搬送 9 10 赤岡消防団による倒壊家屋救出訓練 11 12 自主防災組織による倒壊家屋救出訓練 13 警察先遣隊による情報収集活動。オフロードバイクで倒木を乗り越え、事故現場まで走行 14 事故車両に閉じ込められている要救助者を救出するために、専用救助資機材を使用し、事故車両のドアを破壊する自衛隊員 15 周囲に刺激臭がするとの報告を受け、計測する消防隊員 16 建物内に閉じ込められている負傷者のもとへ進入する救助隊員 17 火災煙体験 18 四国電力による高所作業車を体験 19 自衛隊装備品(カッターレフレクター・ジャッキ)に触れる 20 自衛隊車両の上でピース

津波避難対策ワークショップ

9月8日(土)・9日(日)および29日(土)〜10月1日(月)にかけて第2・3回「津波避難対策ワークショップ」が開催されました。

ワークショップでは、津波浸水予想地域の住民が、津波避難タワーの建設場所や避難場所候補地の選定、避難ルートなどについて熱心に議論。避難場所としては高さは大丈夫そうだが、裏山のがけ崩れが心配。避難場所へ行く途中の橋が落ちる危険性ありといった自分の住んでいる地域の課題を洗い出しました。また「救命胴衣やボートを用意してほしい」「沿岸域の合同避難訓練が必要など」の要望や意見も出されました。次回、第4回のワークショップは、地区ごとの津波避難計画について話し合う予定です。多数の皆さんの参加をお待ちしています。

第4回開催日程

- 10月20日(土) 夜須中央公民館 10時〜12時 赤岡市民館 14時〜16時 吉川総合センター 18時〜20時
- 10月21日(日) 香我美市民館 10時〜12時 のいちふれあいセンター 14時〜16時

- 1 避難場所などを検討。
- 2 居住地から避難場所までの距離を測る。
- 3 班ごとに話し合ったことを発表。



宝くじの助成事業で赤岡町少年防災クラブが防災資機材を整備しました

宝くじの社会貢献事業の一つであるコミュニティ助成事業(地域防災組織育成事業)助成金が、赤岡町少年防災クラブに対して交付されました。これにより同クラブは、助成金でライフジャケットや防火衣、ラジオ付き懐中電灯、トランジスタメガホンなど災害対応資機材11種類149品を、赤岡小学校と赤岡消防団屯所に整備しました。今後、これらの資機材を活用し、防災啓発活動および防災訓練に取り組んでいきます。



問い合わせ 消防本部 ☎55,4141

